

お わ り に

山都町では、熊本県教育委員会から平成25・26年度「幼・保等、小、中連携実践研究事業」の研究指定を受け、清和地域を中心に研究実践に取り組んで参りました。本地域では、『いのち輝く清和っ子』の育成を目指して～育ちや学びをつなぐ保、小、中連携～の研究主題のもと、保育所、小学校、中学校が、目標連携、行動連携を意識しながら研究実践に取り組んで参りました。

私たちは、幼児、児童、生徒一人一人が、確かな学力を育み、心豊かでたくましい子どもであってほしい。そして、一人一人がいのちを輝かせながらいきいきと生活し、自他の存在や家族、地域を大切にでき、自信と誇りをもてる人に育ってほしいと願っています。

そのためには、保育所、小学校、中学校の各段階における育ちや学びをつなぐ実践を充実させるとともに、特に保育所から小学校、小学校から中学校への円滑な接続により、小1プロブレム、中1ギャップが生じないようにすることが大切だと考えています。また、互いの保育・教育活動の創意工夫、地域の伝統文化に継続的にふれる機会づくり、さらには地域教育力の活用、家庭教育の支援と充実に努めることをとおして、保育所、学校、家庭、地域が一体となって子どもを育む雰囲気醸成も重要なことだと考えています。

今回の地域指定を契機に、「目指す子ども像」をもとに保、小、中連携カリキュラムを編成し、保育所、小学校、中学校における実践の再構築を図りました。そして、子どもたちが、確かな学びや育ちを実感でき、心の豊かさやたくましさを身につけ、しなやかに人間関係を結んでともに生きることができるよう、保育・教育活動の系統性を意識し、地域の教育力を活かした取組を進めて参りました。その中で、清和地域の良さの再発見や、保育所、小学校、中学校の連携、家庭・地域との連携の重要性をより深く意識することができました。

2年間の実践研究の指定でしたが、私たちの取組は、まだ研究の緒に就いたばかりです。小学校と中学校における連携授業の計画的・系統的な取組の充実、保育所・学校における共通実践の充実、学習習慣の定着など課題もたくさんあります。そういった課題を今後の保育所、小学校、中学校、家庭・地域との連携による継続的な実践を通して、一つ一つ解決できるよう取組を更に充実させていきたいと思っております。

最後になりましたが、本研究実践推進のため、温かい御支援・御指導を賜りました熊本県教育委員会、上益城教育事務所、山都町教育委員会の皆様、本日の研究発表にご協力いただきました皆様に心からお礼と感謝を申し上げます。

大川保育園長 原住生美 小峰へき地保育所長 井手典子
清和小学校長 吉永博美 清和中学校長 松本正文
他 清和地域保育所、小学校、中学校 職員一同